

降雨が少ない場合はかん水を実施しましょう！
梅雨明け以降はハダ二類の多発に注意！！

1 気象概況

(1) 6月の気象

東北南部は6月15日ごろに梅雨入りし（平年より3日遅い）、6月20日ごろに梅雨明けしたとみられます（平年より25日早い）。会津若松市の令和4年6月の平均気温は20.7℃（平年比+0.3℃）、合計降水量は89.5mm（平年比96%）でした。

(2) 7月以降の気象

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台 6/30 発表）によれば、7月上旬から8月上旬にかけて、気温は平年より高く、降水量は平年並みとなる見込みです。

2 果樹の生育概況

リンゴ（つがる）は、一部園地で摘果作業に遅れが出ており、そのような園地では果実が平年に比べやや小さい状況です。カキでは、果実は平年よりやや大きく推移しています。モモでは、果実肥大は概ね平年並です（表1）。

表1 各樹種の果実肥大状況（7月1日調査、暦日比較、平年は1986～2021年の平均）

| 樹種 品種 | リンゴ | | | | カキ | | モモ | |
|-------------|---------------|----|---------------|----|--------------|-----|--------------|-----|
| | ふじ | | つがる | | 会津不身知 | | あかつき | |
| 調査 地点 | 会津若松市 北会津町 | | 会津若松市 北会津町 | | 会津若松市 門田町 | | 会津若松市 神指町 | |
| 分類 | 縦径 | 横径 | 縦径 | 横径 | 縦径 | 横径 | 縦径 | 横径 |
| 果実径 (mm) | 41 | 42 | 43 | 47 | 19 | 23 | 48 | 50 |
| 平年比 (%) | 102 | 99 | 98 | 96 | 112 | 121 | 95 | 103 |

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア かん水

6月中旬以降、降水量が少なかったため、7月上旬時点においては、土壌（とくに下層土）が乾燥状態であると推測されます。水が不足すると果実肥大が不良となる可能性があります。必要に応じて適宜かん水を実施するようにしましょう！

(2) リンゴ

ア 仕上げ摘果

北会津のリンゴ（ふじ、つがる）では花芽分化期に入りました。仕上げ摘果が遅れ

ると養分の競合から翌年の充実した花芽を確保できない恐れがありますので、速やかに終了させましょう。

イ 病害虫防除

一部園地で**黒星病**の感染が確認されています。特に、昨年多発した園地で発生が多いようです。降雨の際は、計画的に防除しましょう。

また、梅雨明け後は**ハダニ類**の多発に注意が必要です。特に乾燥した条件で多発しやすいので、葉をこまめにルーペ等で確認し、発生を確認したら防除暦を参考に防除を徹底しましょう。

(3) カキ

ア 仕上げ摘果

生理落果は7月10日頃まで続きます。生理落果が終了する7月中旬頃から、小果、傷果、奇形果等を中心に摘果を実施しましょう。

イ 新梢管理

7～9月にかけて3回程度に分けて新梢管理を実施します。一度にせん除すると枝の二次伸長を招く恐れがあります。

新梢が密生している樹では、強すぎる新梢や弱い新梢、逆行している新梢を中心に間引きます。来年、結果枝として利用できそうな新梢は多めに残しましょう。

ウ 病害虫防除

昨年は**落葉病**が多発しました。今年も多発が予想されますので、7月中旬までの間、防除暦に基づき10日間隔での薬剤防除を徹底しましょう。

(4) モモ

ア 修正摘果

モモ「あかつき」は6月30日頃に硬核期が終了したとみられます。順次、修正摘果を実施しましょう。肥大不良果や変形果、果面からヤニが噴出している果実等は、順次摘果します。一度にたくさん摘果すると、核割れや縫合面の割裂を助長する恐れがあるので、できる限り複数回に分けて丁寧を実施しましょう。

イ 収穫前管理

調査園における「あかつき」の平年の収穫開始日は、8月3日です。本年度は気温が高く推移していることから、平年より早まることが予想されます。園地を良く観察し、収穫が遅れないよう注意しましょう。収穫予定日の10日前頃には、夏季せん定や支柱立て、反射シートの設置等により着色管理を実施しましょう。

ウ 病害虫防除

せん孔細菌病は降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第除去して適切に処分してください。

(5) ブドウ (シャインマスカット)

ア 摘粒

ジベレリン処理を実施したブドウは、果粒が密着して肥大し裂果することがありますので、必ず摘粒を実施します。摘粒はさみを使用して、傷のある果粒 (サビ果・傷果)、肥大の悪い果粒 (小粒果)、形の悪い果粒 (変形果)、穂軸に対して内側を向いている果粒 (内向果) などを取り除きましょう。



図1 袋掛け・カサ掛け

イ 袋掛け・カサ掛け

摘粒が終了したら、病虫害やかすり症を予防するため袋掛けを行います。日中の温度が30℃以上になる時期やベレーゾン期 (硬核期以降の水回りの時期) は日焼けが発生しやすいので、作業は行わないようにします。なお、例年日焼けが発生する場合は、カサを併用しましょう。

(図1)

ウ 摘房

果実品質を向上させるため、最終的に新梢5本に4房となるまで摘房しましょう。

エ ハクビシン対策

糖度が上昇してくる8月以降は、ハクビシン被害が多くなります。鳥獣害対策を徹底しましょう！ (図2)



図2 ブドウ防鳥獣保護ネット

(農研機構特許取得)

4 水稻育苗ハウスを活用したブドウ栽培について

会津農林事務所では「水稻育苗ハウスでのブドウ栽培」の実証を実施しています。

水稻育苗ハウス内部は夏季に高温となるため、高温障害が発生しやすくなります。遮光シートの利用やハウスに天窗を付けるなどして換気を徹底する、なるべく背の高いハウスを使用する等の対策により高温障害を軽減することができます。皆様もぜひ対策してください！

- 農業災害が多発しています。農業保険 (農業共済・収入保険) に加入しましょう！
- 毎日の睡眠を充分とって、健康管理に十分注意しましょう！